

---

# 愛のカタチ

小田 和葉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛のカタチ

### 【Nコード】

N3288B

### 【作者名】

小田 和葉

### 【あらすじ】

私は、彼を殴った。理由は、無かった訳じゃない。だけど……。

殴りたい、という感情がなかったわけではない。

理由がなかったわけでもない。

……だけど、言いたくない。

「どうしてケンタロウ君を殴ったの」

「……」

先生は、黙り込んだわたしを睨み付けている。そんな先生に、違うよ、向こうが悪いんだよ、って言ってやりたかった。

だけど、わたしは黙り込んだまま、あいつを殴った所為で、少しだけ痛む右手をさすった。頭の中はいろんな感情でつぶれそうなのに、表情はいたって冷静なままだった。

「黙っていたらわからないでしょ！」

「……ケンタロウ君、が」

「彼が、どうしたの？」

痺れを切らして怒鳴りだした先生の声にびっくりして、何度も頭の中に浮かんだ、あいつを悪者にしてしまう文章の切れ端が、声となつて出てきてしまった。

はっとなつて、これ以上は言わない、と、唇をかみ締めると、代わりに涙があふれてきた。

「健太郎君が悪いの？」

先生がわたしの涙を見て、困ったように焦ったように言った。わたしは、ふるふると首を横に振る。

先生が何度も言い方を変えて聞いてきた。でも、わたしは首を振るだけだった。

本当は、あいつが悪いと、言ってしまったかった。

今日、いつものようにわたしをからかってきたケンタロウ君は、「バカ」等と罵った後に、いつもの笑顔で言った。

「お前なんか、誰も好きにならねーよ！」

その言葉だけ、いつも通りにあしらうことが出来なかった。頭がぐちゃぐちゃになって、目の前が真っ白になって、初めて「こいつを殴りたい」と思った。

そうして、気がつけば、わたしの小さな拳は、ケンタロウ君の左頬を殴っていた。

「どっちが悪いの？ 健太郎君？」

「……わたしが、悪いの、先生」

彼がわたしの所为で、先生に怒られて、二度とわたしに声をかけてきてくれなくなってしまうくらいなら、わたしだけが怒られるほうがマシだと思った。

それが、本当に彼のためになるのかなんて小学生のわたしにわかるはずなどない、ただ、目の前にある選択肢の中で、彼を失わないのはどれかが今のわたしには重要だった。

「そう……でも、どうして？」

「わからない」

「理由もなく人を殴ったの!？」

「……」

「とにかく、健太郎君には謝るのよ!」

「はい」

言葉が悪くて、わたしのことをいつも「バカ」「ブス」と罵って、時には殴り、いじめる彼を、わたしは憎んだっておかしくないはずだ。

それなのにどうして、彼をかばったのか、今なら、はっきりわかる。

わかったところで、かなわない恋だということも。

おわり

（後書き）

この話は、実際に私が小学生のときに経験した話を、少し脚色して小説にしました。

いつもちよっかいを出してくる男の子を好きになったことがあって、実際に似たようなことになったこともあります。今はもう彼は引越してしまいましたが（笑）

読んでくださってありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3288b/>

---

愛のカタチ

2010年11月11日07時51分発行